

# みどりの 東北

MIDORI NO TOHOKU



柿の実を食べるニホンザル [提供：藤里森林生態系保全センター]

## 特集

令和2年度国有林モニター現地見学会を開催 [企画調整課]

## CONTENTS

### ■美しい森林づくり

国有林野を活用した「漆うるわしの森づくり」協定締結…………… [岩手北部森林管理署]

### ■我が署の名所

下前風景林の滝(岩手県和賀郡西和賀町)…………… [岩手南部森林管理署]







# 令和2年度 国有林モニター現地見学会を開催

## 企画調整課

国有林野事業では、国民との双方向の情報・意見の交換など対話型の取組を進めています。その一つとして、国有林モニター制度を活用した、国民の要請の把握やそれを反映した国有林野の管理経営の推進により、国民の皆様からの国有林野事業に対する幅広い理解と支援を得るよう努めています。

国有林モニターの方々には、資料提供や現地見学会を通じて国有林野事業についての理解を深めていただき、アンケートや意見交換等を通じて、国有林野事業についてご意見・ご提案をいただいております。

東北森林管理局においては、令和2年4月から2年間、管内5県にお住まいの48名の方が国有林モニターとして活動しています。

国有林モニター活動の二環として、9月10日（木）に青森県の三八上北森林管理署管内、10月30日（金）に岩

手県の岩手南部森林管理署遠野支署管内において、今年度の国有林モニター現地見学会を開催しました。

第1回の現地見学会では、「治山事業」と「森林整備事業」、第2回は「林道の維持修繕」と「森林病虫獣害対策」をテーマにそれぞれの事業を見学しました。

### 第1回現地見学会

#### （三八上北森林管理署）

はじめに青森県十和田市鳶国有林115林班において、地すべり防止対策の一つである「集水井（しゅうすいせい）」を見学しました。

集水井はパイプで地下水を集める構造となっており、集めた水を川に排水することで、地下水位を低下させ、地すべりの防止を図っています。今回見学した集水井は深さ21.5mですが、地上からも水の音が聞こえ、集水の様

子を観察することができました。また、地下水位や土の動きなどを観測するモニターリング調査についても説明しました。



集水井の見学

次に、青森県十和田市谷地国有林125林班において、低コスト林業として東北森林管理局で導入している、

伐倒、木寄せ、造材、運材、巻立の伐採・搬出作業と地拵え・植付の造林作業の同時進行が可能となる「一貫作業システム」を見学しました。

従来は、伐採・搬出作業と地拵え・植付の作業は別々に発注されており、伐採作業終了後の人力での地拵えや苗木運搬は重労働となっていました。一貫作業システムでは、伐採・搬出に使用した大型機械（グラップル等）で地拵え、苗木運搬を行うため、労働軽減につながるほか、コンテナ苗を採用することにより、さらに造林作業コストの縮減が図ることができます。

当日は、一貫作業システムのうち、伐倒、木寄せ、造材、運材、巻立の一連の伐採・搬出作業と植付作業を見学しながら、各作業について説明をしました。また、職員より植付作業について、普通苗とコンテナ苗の植付工程の違いを説明し、参加者によるコンテナ



苗の植付体験を行いました。なお、本見学箇所では、請負事業者である有限会社下久保林業に各作業のデモンストラーションのご協力をいただきました。



一貫作業システムの見学



コンテナ苗植付体験の様子

## 第2回現地見学会

(岩手南部森林管理署遠野支署)

岩手県遠野市金堀沢林道、南沢林道において、林道の維持修繕の取組として、金堀沢林道沿いにある「土石流フェンス」と南沢林道の「鉄鋼スラグ」を

見学しました。

金堀沢林道は、沢を横断する箇所に埋設したコルゲート管が、増水により上流から流下した土砂等で詰まり、堰き止められた水の圧力で林道が決壊してしまいました。復旧にあたり、沢の上流には、なお土砂が堆積していることから、土砂や流木を補足するフェンスを設置して、林道を保護しています。南沢林道では、従来の碎石に替わる路盤材として、再生資源である鉄鋼スラグによる舗装をしています。鉄鋼スラグを舗装に用いることで、耐久性が向上し維持管理コストの縮減が期待できます。



土石流フェンスの見学

次に、遠野市東恩徳国有林にある「琴畑水源遊々の森」において、シカによる森林被害防止対策を見学しました。琴畑水源遊々の森は、NPO遠野エコネット及び遠野市と協定を締結して市民参加による森林の再生を目的に設定したもので、毎年小学生を対象にミズナラの植樹体験を実施しています。ミズナラはシカの被害を受けやすいため、植樹にあわせて苗に保護チューブを設置しています。

琴畑水源遊々の森において国有林野事業としてシカの捕獲は行っていないが、「囲いワナ」と「くくりワナ」(い



保護チューブ設置個所の見学

のしか御用」を仮置きして、捕獲事業の概要、ワナの仕組み、特徴について実演を含め説明しました。



囲いワナの実演

見学会を通して、モニターの方々から、「一般国民が知らないところで、治山・治水対策や伐採などの森林整備が着実に進められていることを知ることができた」と「よつやく収穫時期を迎えた木材資源を有効に活用する」等のような国の力強い施策を期待する」等の感想をいただき、東北森林管理局の取組等についてより一層理解を深めることができたと考えています。



# 美しい森林づくり

## 国有林野を活用した「漆うるわしの森づくり」協定締結

岩手県北部森林管理署

岩手県二戸市は、国産漆の生産量の約7割を占める日本一の産地であり、漆の安定生産及び漆掻き技術の継承として漆林の確保や人材育成などに取り組んでいます。

国産漆は、漆器、家具、美術品等の塗料として使われているほか、平成27年度から国宝や重要文化財の修繕には原則として国産漆を使用することとされました。

また、今年の6月には、二戸市と八幡平市による「奥南部 漆物語」安比川流域に受け継がれる伝統技術が日本遺産に認定され、国産漆が注目されています。

このように、脈々と受け継がれてきた漆に関する伝統や文化などを守り続けてきた国産漆の最大産地である二戸市浄法寺地域では、伝える・つなぐ・体験する場のシンボルとして漆の森を造成拡大に向けて地域の

団体等と連携し植栽等を行っています。

当署としても、国産漆の漆林造成の確保とともに、地域の木の文化を支えるため、これまでに漆林の適地を情報提供し、分収林契約により生産量確保に取り組んできたところです。



二戸市との協定締結式

この度、10月30日に二戸市役所において、当署と二戸市は、漆林の造成とともに、人材育成のフィールドとして、国有林野を活用した「漆うるわしの森づく

り」に関する協定を締結しました。

協定に先立ち10月22日には、東北森林管理局長と二戸市長は、浄法寺町大清水国有林内二・七〇ヘクタールの分収造林契約を締結しています。

11月13日には当該契約箇所において、二戸市主催で岩手県浄法寺漆生産組合他三団体の共催による植樹祭が開催されました。

当日は、3日前に降った雪がまだ現地に残っていて肌寒い中での植樹となりましたが、藤原二戸市長をはじめ、地元の小中学生60名を含め総勢200名の参加の下、ウルシの苗木など千本



小学生らによる植樹

が植樹されました。当署からも若手職員はじめ7名が参加し、植樹活動に協力しました。



参加者 200 名による集合写真

植栽木はウルシのほかに木地として使用されるトチノキも植栽され、今回、植樹した苗木から「漆掻き」(漆を採取すること)ができるまでは、15〜20年かかると言われており、二戸市では、今後も「漆うるわしの森」におけるウルシの植栽に取り組んでいくこととしており、当署としても、引き続き漆産業振興と後継者育成に貢献できるよう取り組んでいきます。

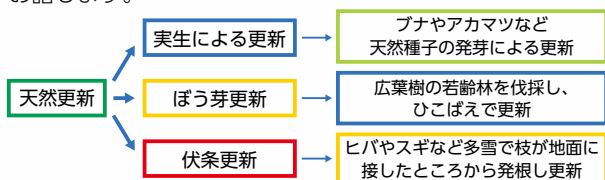




# 世代交代(森林の天然更新)

三八上北森林管理署 地域統括森林官 松尾 亨

林業では森林を伐採し世代交代させることを更新と言います。スギやヒノキなどを植栽する人工更新や、天然力を活用した天然更新、双方の特性を組み合わせた方法等があります。世代交代には将来の経済性や環境保全、美観等の目的にマッチさせることが重要で、今回は天然更新についてお話しします。



上のフローチャート図は天然更新方法の分類で、3つの更新方法の特徴について説明します。**実生更新**①はカラマツの更新と稚樹で、2018年の種子豊作年に伐採、翌春に作業道やのり面に発生しています。カラマツは陽樹で暗い林内では発芽しても枯死し、攪乱地や鉱物質が出ているような条件下での更新が良好です。②はスギの更新と稚樹で、こちらは土捨場に発生した珍しい写真で、稚樹が3葉なのも特徴です。スギは天然更新が難しい樹種で、工事に伴う人為作用があつての更新です。③のオニグルミとクリの実生稚樹は、リスやネズミが貯食用に埋蔵した種からの発生で森ではよく見かけます。実生更新は伐採やギャップ等の隙

間を埋める更新に向き、自然交配による種子の発生で遺伝的多様性が高い特徴があります。**ぼう芽更新**④はホオノキ⑤はミズナラの写真です。ぼう芽更新は広葉樹の薪炭林で使われる更新方法で、30年～50年生くらいの林を皆伐して、切株からひこばえを発生させる更新方法です。桃太郎のおじいさんが「山に柴刈」の作業はひこばえの選別刈払のことです。写真円の实生稚樹とは形態が違い、根が残っていることから1年生で縦横1m以上となり、初期成長が早くコスパの高い林業といえます。**伏条更新**⑥のヒバは雪圧で枝が接地した箇所から発根し分株します。写真のように這った状態で生育し林内にギャップができるチャンスを持って更新します。天然スギでも見られ、多雪地特有の不利な条件をカバーする方法です。ぼう芽と伏条更新は自身のクローンによる更新なので遺伝的多様性が低い特徴があります。

自然界では山火事や台風によるギャップ、土砂崩壊も世代交代には欠かせないチャンスで、樹木たちは実生、ぼう芽、伏条の更新方法を、その場面に合わせて使い分けています。引き際が肝心といわれる人生！定年間近の私も深い世代交代をと頭では・・・でも頭の、持続可能な天然更新方法はいまだ模索中です！



①カラマツ実生による天然更新と稚樹



②スギ実生による天然更新と稚樹



③オニグルミとクリの実生による天然更新



④ホオノキぼう芽更新



⑤ミズナラぼう芽更新



⑥ヒバ伏条更新





## 「五所農林の生徒を インターンシップ受入れ」

青森森林管理署

青森森林管理署では、10月13日（火）～10月15日（木）の3日間、青森県立五所川原農林高校が行うインターンシップに協力し、将来、林業に携わりたいと考えている森林科学科2年生の生徒1名を受け入れました。

生徒は初日、葛西総括事務管理官から



木材市場の見学

当署の特色や管内概要等の説明を受けました。その後、金澤総括森林整備官等から青森ヒバの説明を受け、青森県森林整備事業協同組合と青森県木材協同組合のそれぞれの木材市場で当署から出材したヒバ丸太を見学しました。外ヶ浜町内の地拵え作業箇所では、柳谷主任森林整備官等から作業内容等の説明を受け、作業状況を確認するドローンの操作体験もしました。さらに、青森市森林博物館で、林業についての古い写真展を見学し森林・林業の魅力を感じました。



ドローンの操作体験

2日目は、外ヶ浜町内で収穫調査を体験しました。立木の伐採にあたって行う基礎的な業務で、伐採対象木を選定することも、樹種、直径、高さ、質等を調査します。金澤総括森林整備官から調査内容や調査方法の説明があり、終日収穫調査を行いました。



収穫調査の体験

3日目は、外ヶ浜町三厩地区で実施中の治山工事の現場を訪ね、工藤総括治山技術官等から、工事内容の説明を受けつつ、モルタル吹付作業を見学しました。



治山工事現場の見学

また、青森ヒバ林復元プロジェクトの実施箇所（外ヶ浜町三厩）を見学し、ヒバの稚幼樹が旺盛に根づいている状況を確認しました。その後、青森市内の内真部山国有林では、12年前にヒバ苗を植えた箇所を見学しました。最後に署内でレポートを作成し、3日間のインターンシップが終了しました。



青森ヒバ林復元プロジェクト箇所の見学



後日、「今回学ばせていただいたことを糧に、資格取得など学業を頑張りたいと思います。ありがとうございます。」との礼状が署に届きました。

今回のインターンシップを通じて、森林・林業への興味を深め、将来の進路に活かすことを願っています。





# 森林官からの手紙

## 「管内の魅力を全身で感じてます。」

三八上北森林管理署 首席森林官

佐藤 智之



高山植物盗掘防止パトロール

私が勤務する八溪山（やげやま）森林事務所は青森県十和田市のほぼ真ん中に位置する奥瀬地区にあります。現在は法量森林事務所も兼務しており、その管轄区域は十和田市の国有林の内、北八甲田から十和田湖までにおよび、管理面積は約二万二千haとなります。また管轄区域の大半が十和田八幡平国立公園に指定されています。

管内には、八甲田山や奥入瀬溪流、十和田湖など青森県を代表する多くの名所があるので、現場への移動時は、名所めぐりさながらに官用車を走らせています。

森林官として通常業務である請負事業の監督業務、林道点検、境界管理などを行っています。県や市、環境省など関係機関と連携した取組として「奥入瀬溪流の歩道点検」や「樹木安全点検」、そして「八甲田山地域高山植物盗掘防止合同パトロール」なども実施しています。

八甲田山地域高山植物盗掘防止合同パトロールに参加した際に感激したが、南八甲田の登山道です。猿倉温泉から始まるこの登山道は道幅がとても広く、傾斜の緩い道が延々と続くことに違和感を感じまし



石積みされた登山道（旧観光道路）

た。実は昭和初期に八甲田から十和田湖に通じる観光道路として建設されましたが、一度も車が走ることなく工事は終わったそう。かん木、笹が生い茂った今でも所々にある法面の石積みとその面影を見ることが出来ます。昭和遺産とも言えるべきこの登山道を歩くことができたのは貴重な経験だと思います。

近年の特徴的な事案としてはニホンジカの北上も懸念されています。三八上北署でも青森県の要請により管内にニホンジカ監視カメラを設置しています。すでに他の森林事務所管内では多数確認されていますが、今年はどうとう私の管内でも確認されました。被害があった箇所にはカメラだけが映っていたので被害はまだないものと考えていますが、今後は頭数の増大及び生息範囲の拡大につれて被害が増えることが予想されますので、引き続き監視を行いつつ、対策が必要になってくるものと思われま

最後に私が昨年赴任してから実際に足を運んだ中で一番美しいと感じた葛沼を紹介いたします。葛沼を含む周辺の沼を散策できる

歩道が環境省によって整備されており、その魅力は何と言っても紅葉時期の早朝に見られる湖面に映った景色です。朝日に照らされた山々の紅葉と、それが湖面に映しだされた姿は非常に美しく、人気スポットとなっています。また、国内大手旅行会社を選ぶ「感動の瞬間（とき）100選」にも「朝日に映え黄金に



湖面に紅葉の映る葛沼



監視カメラに映ったニホンジカ

輝く葛沼の紅葉」のタイトルで登録されており、東北地方の紅葉名所で唯一登録されていることから、その素晴らしさがわかると思います。

今年はコロナ禍の影響による密を避けるため、一定期間の早朝は入場及び駐車場利用事前予約制の導入と協力金を徴収されています。

魅力的な名所に囲まれた管内ですので、自身もその魅力を存分に感じたりながら、これからも業務に取り組みたいと考えています。





# 我が署の名所

## 下前風景林の滝

(岩手県和賀郡西和賀町)  
岩手南部森林管理署

岩手南部森林管理署の管内は、北上川を中心に西を奥羽山脈、東を北上山地に挟まれ、二百名山に名を連ねる和賀岳、焼石岳、栗駒山をはじめ多くの山々に囲まれています。冬は豪雪に閉ざされる奥羽山脈の山々は豊富な水に恵まれ、滝や溪谷などの景勝地を各地に作っています。

当署管内西和賀町と秋田県美郷町の境界に位置する女神山の膝元にある、下前溪谷も、そのような景勝地の一つです。一帯はレクリエーションの森『下前風景林』に指定されており、新緑の春から紅葉の秋まで、大小の滝や溪谷美を楽しみながらハイキングができる森林として、また、女神山への登山口として親しまれています。

片道三十分程度の歩道をゆくと、ブナを中心とした森の中に白糸の滝、爺滝、女神霊泉、石清水といった滝が次々と現れます。最奥の降る滝は落差40m、豊かな水量を誇ります。滝壺の側まで近づいて、見上げるほどの高さの崖から、まっすぐに落ちる滝しぶきを楽しむことができます。また、駐車場からすぐの分岐を下れば、白糸の滝とその奥の姥滝も近くで眺めることができます。

なお、下前風景林へのアクセスには、未舗装の林道を通る必要があります。足下が悪いため、登山靴を履いて臨んでください。また、クマが出没していますので、複数人で入林し、楽しくおしゃべりするなど音を出しながらの散策をお願いします。

岩手南部森林管理署

TEL 023-080503

岩手県奥州市水沢東上野町12-17  
TEL 0500-316005020



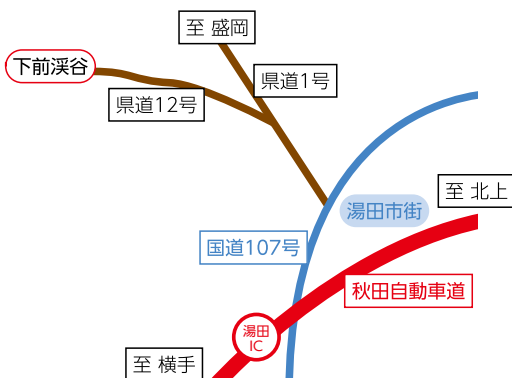
紅葉に囲まれた歩道



下前風景林案内板



駐車場の様子



### ◎交通アクセス

車で秋田自動車道湯田ICから国道107号を湯田方面に約4km。県道1号に折れ、盛岡方面へ約7km進んだ後、県道12号を下前方面に約8km。その後、下前林道を約5km。



白糸の滝



降る滝

